

# Global Energy Policy Research

GEPR (グローバル・エネルギー・ポリシー・リサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

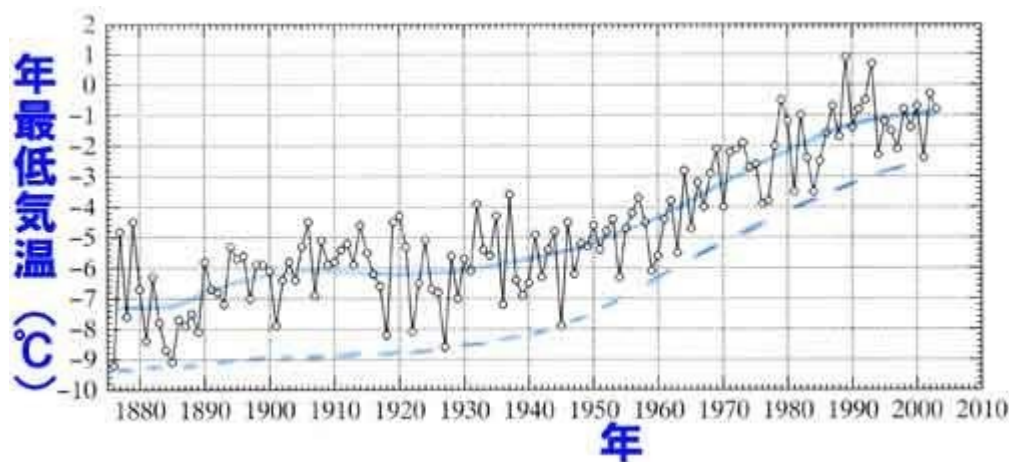
## 都市熱のお蔭で東京の最低気温は100年で7度も上昇した

杉山 大志 · Wednesday, November 11th, 2020

今年も冷え込むようになってきた。

けれども昔に比べると、冬はすっかり過ごしやすくなっている。都市熱のおかげだ。

下図は、東京での年最低気温の変化である。青の実線は長期的傾向、青の破線は数十年に1回の頻度で発生する極低温の出現傾向である。



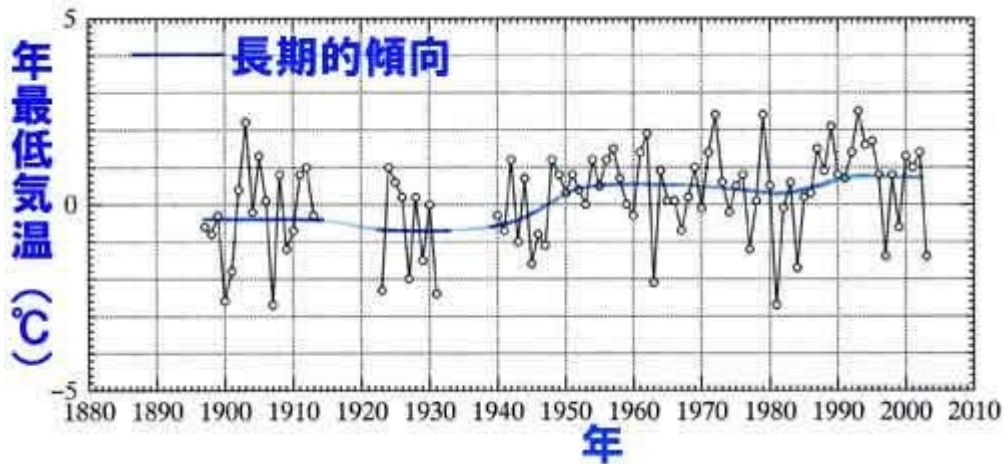
東京における年最低気温の変化 (出典：近藤純正ホームページ)

昔はマイナス7~8、ときにはマイナス9ということもあったようだが、近年ではせいぜいマイナス2程度になった。

**じつに、5 から7 ほど、東京の年最低気温は上昇した。**

これは都市熱によるものだ。

このことは、東京から離れた地点での気温と見比べるとわかる。伊豆半島先端の石廊崎では、1程度しか気温は上昇していない。これは地球温暖化による日本全体の気温上昇に対応する。



石廊崎における年最低気温の変化（出典：近藤純正ホームページ）

都市熱という、とかく悪者扱いされる。  
けれども冬の冷え込みが和らぐことは、健康には随分良いはずだ。

そして寿命も延びると思われる。というのは、既にしたように、  
超過死亡のデータを見ると、冬の方が夏よりも断然死亡数が多いからだ。

地球温暖化も少しばかり長寿に貢献していそうだけれども、都市熱の効能（？）に比べると陰が薄そうだ。

かつて「疾病と地域・季節」という本で、初山政子先生は「日本人は冬季に死亡が多いので、都市全体を暖房すると良い」という主旨のことを書いておられた。1971年のことである。

それから50年、日本人は、意図することなく、都市全体の暖房を実現してしまった！

それに、考えてみると、アーケード、地下街、公共交通や自動車などで、吹きさらしの戸外に出る機会すらだいぶ無くなっている。

かつて東京でマイナス9 の寒さに震えていたというのは今となっては信じがたい。暖かくなって本当に有り難いと思う。

This entry was posted on Wednesday, November 11th, 2020 at 10:00 am and is filed under [コラム](#), [地球温暖化](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.